

## 歓迎のことば

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新しく農業環境工学科ならびに農業環境工学専攻の一員となった皆さんを、教職員、在学生一同、心より歓迎します。

宇都宮大学農学部は、前身の宇都宮高等農林学校が創立された1922（大正11）年以来、これまでに約1万名（学部）の卒業生と、約4千名の修了生を社会に送り出しています。農業環境工学科は、1943（昭和18）年に前身の農業土木学科が発足した後、1991（平成3）年に現在の農業環境工学科として設置されています。

皆さんが農業環境工学科に入学した理由は様々だと思います。この学科で何を学ぶのか、それが自分の将来にどのように結びつくのか？という点について、今の段階で明確に認識している人はほとんどいないことでしょう。また、これからの勉強で、自分の予想とのズレを感じることもあるかも知れません。しかし、そうした不安や懸念は、新しい環境に入ったときには常にあるもので、そこでのやるべきことをしっかりとやり遂げて、自信を深めていく中で解消されるものです。

これから学ぶ農業環境工学は、食料生産と生活環境、自然生態系の三者が調和した田園空間の創造を目指し、農業と環境に関する諸課題を工学的に解決していく学問分野です。したがって、農業環境工学は、日本や世界の田園空間が直面する様々な課題に取り組む分野であると同時に、地球上で人類が生存するための礎を築く分野なのです。様々な課題を工学的に解決するには、理数系の基礎的な知識を身につける必要があります、苦手意識を持つ人もいると思います。しかし、このような知識を身につけておけば、やがて実際の食料生産に役立つ環境基盤や機器・システムなどの創出や、実践的な環境機能評価につながっていくのです。皆さんはやがて様々な職業に就くこととなりますが、働くことは単にお金を稼ぐことではなく、社会の役に立つことです。そこで皆さんには、どのような職業に就くか、自身が社会にどのように貢献できるかについて真剣に考え、このことを意識しながら大いに学び、農業環境工学分野で活躍してくれることを期待しています。

全国の大学の農業工学関連プログラムの中でも、宇都宮大学の農業環境工学科は、先進的で充実した教育カリキュラムを備え、質の高い指導ができる教員が在籍していると自負しています。また、教職員と学生の交流、学年を超えた学生同士の交流も盛んで、皆さんが成長するための環境は十分に整っています。首都圏へのアクセスも良く、近隣には世界遺産の日光東照宮があり、国立公園などの自然環境にも恵まれています。あとは君たちがこれらの資源と環境を存分に生かして勉学に勤しみ、当学科への入学が皆さんの人生における賢い選択であったといえること、当学科を卒業して良かったといえるようになることを期待しています。